

令和3年度 第3回寒川町地域自立支援協議会 意見集約表

意見内容	回答
(2) 相談支援事業所からの報告について 基幹の個別支援も含め3事業所とも精神障害者への対応の割合が大きい。どのような内容が多く、多いことにはどのような理由が考えられるのか。その分析により、足りない支援につながる可能性があるのではないかと。また、その考察により、相談事業所の負担が軽減され、他の課題に対して迎える可能性があるのではないかと。	ご意見のとおり、各事業所での精神障害への対応の比率は大きくなっています。各種手帳の取得率を比較しても、精神手帳の伸びが最も大きく、このことが要因の一つと思われます。今後も委託相談支援事業所連絡会において、相談状況を把握し、より効果的な事業の実施に向けて努めてまいります。
(5) 地域生活支援拠点等(緊急ステイ事業)の整備の推進について 緊急時支援プランについて、関係機関・担当者など記入できる項目があると良いのではないかと。家族が不在の中での危機対応時、情報が必要になることも考えられる。	緊急時支援プランについては、家族(支援者)が不在の際の運用を検討するものであるため、必要な情報については既存の様式にて聞き取りを行えるように運用していきます。
(2) 相談支援事業所からの報告について 「すまいる」さんから、日中支援型グループホーム利用のご報告がありました。日中支援型なので、通所されていない方がグループホームで支援を受けながら日中活動できることを期待しています。日中支援型グループホームでは日中、具体的にどのような活動(支援)が行われているのでしょうか？	日中サービス支援型グループホームでは、一般的に24時間の相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を提供しています。
(3) 関係機関からの情報提供について 虐待の原因にお子さんの障がい(障がい受容、育て難さなど)が関係していると思われるケースはどのくらいあるのでしょうか？どの年齢層に多いのでしょうか？児童期の支援ネットワーク構築に必要な情報だと思います。	主な虐待の背景についての統計は取っていますが、「子どもの障がい」はその項目に入っていないので、数としては出していません。虐待の背景にはいくつかの要因が考えられますが、その中には子どもが障害があることで保護者が育てにくさを感じていたり、障がい受容の難しさから子どもの特性を受入れることが出来ない等が背景にあることもあります。 虐待の多い年齢層についてですが、一番多いのは「就学前(1～6歳)」の年齢で、昨年度は約35%です。「小学生」もほぼ同じくらいの数(約34%)になります。
(4) 児童期における支援ネットワークの構築について アンケート配布先について。現場の先生方から回答をいただけないことが非常に残念です。教育現場でグレーゾーンと言われている障がいと見極めにくいお子さんが増えています。実際に接している先生方からの生の声がネットワーク構築に必要だと思います。	今後、ネットワークについて検討していくにあたり、必要に応じて、各機関から意見の聴取等を行っていききたいと思います。
(7) その他 未だウィルス感染に気を付けなければなりませんが、今回のように席の間隔を開け、十分な感染対策がされているのであれば、会議の時間を短縮しなくとも良いと思います。この会議は、寒川町が掲げている福祉のつながりの貴重な機会です。活発な意見交換が当事者と支援者とのつながりを深めます。現場の業務を抜け、時間を割いて参加されている委員の方もいらっしゃると思います。報告と説明で終わるのはもったいないと思います。	今後もコロナウィルスの感染状況等を加味し、町の規定に則り対応を検討していきます。
(5) 地域生活支援拠点等(緊急ステイ事業)の整備の推進について 緊急時支援プラン利用登録の推進について。障がい福祉関係の連絡会や協議会へ周知されましたが、そこから個々の当事者の方へこの事業の情報はどのように発信されるのでしょうか？大切な事業なので、必要な方へ漏れなく伝わることを期待します。	現状の予定といたしましては、関係団体や相談支援事業所からの周知を考えています。それらとのつながりが無い方につきましては、ホームページ等の活用及び手帳取得時の説明なども行い、広く周知できるよう検討していきます。
(5) 地域生活支援拠点等(緊急ステイ事業)の整備の推進について 「寒川町障がい児者緊急時支援プラン」の案内の送付予定は？	
(5) 地域生活支援拠点等(緊急ステイ事業)の整備の推進について 各福祉団体には説明があるようですが、団体以外の方には案内だけではわかりにくいと思いますが、どのようにお考えですか。	

※その他のご意見に関しましては、様式の誤字修正等に係るものでしたので、適宜対応いたしました。